



User Profile

成田市消防本部

■ 設置年月

1965年4月1日

■ 所在地

千葉県成田市花崎町760

■ 管轄区域

成田市および香取郡神崎町の全域

■ 職員定数

241人

■ 消防署・分署数

消防署4カ所、分署4カ所

■ 導入システムの概要

NTTドコモのFOMAおよびXiに対応し、スマートフォン内蔵カメラを使った映像中継システム「Smart-telecaster」を導入

■ 導入の目的

従来の静止画像伝送装置の代替として、より簡単に操作でき、消火・救助活動に支障をきたさずに映像を伝送する

成田市消防本部

スマホで災害現場の情報を伝達 大規模災害での活用も視野に

成田市消防本部は、スマートフォンで災害現場の状況を把握する映像中継システム「Smart-telecaster」を導入した。複数拠点の映像を同時に受信でき、広域災害発生時の活用も見込んでいる。

文◎村上麻里子(本誌)

火災や自然災害の発生現場では、消火・救助活動にあたる消防隊の活躍が欠かせない。それを支えるのが各自治体の消防本部(消防署)や、「消火をしない消防隊」と呼ばれる指揮隊の存在だ。消防本部は現場にいる消防隊から情報を集め、現場で指揮を執る指揮隊にその情報を伝達する。

成田市消防本部は、そうした情報伝達手段として今年3月、スマートフォンを利用した映像中継システム「Smart-telecaster」を導入した。NTTドコモのFOMAおよびXiに対

応し、スマートフォンの内蔵カメラを使って火災や災害の状況を映像と音声で本部にライブ伝送する。

従来は専用の車載カメラを指揮隊が搭乗する車両(指揮車)に取り付け、撮影した画像を携帯電話で消防本部に送っていた。しかし、機材はホームビデオほどの大きさで持ち運びに不便なうえ、セッティングにも時間がかかる。しかも、カメラが固定されているために撮影範囲が限られ、静止画で詳細を把握しづらいこともあり、十分に活用しきれていなかった。そこで、伝送に使っていたドコモの



成田市消防本部
通信指令課
副主査
藤崎伸幸氏

2G回線DoPaが今年3月に終了するのを機に、代替システムの検討を開始したという。

最大12拠点の映像を受信

Smart-telecasterは大掛かりな機材やアンテナを使わず、タッチパネルを押すだけで簡単に操作できるシステム。双方向の音声コミュニケーションにより、リアルタイムに現場に指示を出せる点も特徴だ。最大12拠点の映像を受信できることから、震災などの広域災害が発生した際には、消防本部で複数拠点の状況を同時に把握し、音声で指示を出すことも可能になる。「以前のシス